



東海支部報

日本山岳会東海支部

No. 175 Oct. 1, 2023

発行 公益社団法人
日本山岳会東海支部

〒460-0014 名古屋市中区富士見町8-8 OMCビル

電話：052-332-8363 FAX：052-322-7924

郵便口座 00800-5-13749 「日本山岳会東海支部」

銀行口座 三菱UFJ銀行 覚王山支店

普通1222073 「日本山岳会東海支部」

編集 星 一男

印刷 (有) アジマプリント



「伊吹山播隆上人祭」地蔵堂での読経 詳細本文P4参照

目次

○カナディアンロッキー クライミング 草野駿希	2	○同好会コーナー	渡邊康夫 15
○「播隆上人祭」開催	4	○随想 山岳写真展の愉しみ	杉浦吉治 16
○広島・東海支部交流会	5	○登山用具あれこれ⑨	千葉泰丈 18
○猿投の森づくり活動報告	6	○委員会報告 山行/ ボランティア	19
○パンゴン山脈・ メラック山群偵察 沖 允人	7	○支部友コーナー	金谷正起 20
○トピックス	9	○会務報告	今津英一朗 23
○山書蒐集夜話 その6 安藤忠夫	10	○ルーム日誌・会員異動	今津英一朗 26
○東海支部蔵書からの一冊37 石田文男	13	○INFORMATION	星 一男 27
		○編集後記	

ユースコーナー②

カナディアンロッククライミング

青年部 草野 駿希

登山を始めて6年近くが経つ。もちろん、まだ国内の知らない山、行ってみたい山もたくさんある。それでも、多少なりとも山を経験して次のステップアップとして興味を持つのが海外の山である。そんなことを考えるようになり、2月頃に今年の夏にカナダでクライミングに行こうという計画があることを知った。

カナダといえばカナダでガイドをされてる東海支部の山田利行さん（以降トシさん）がいらっしゃるところで今回はそのトシさんも計画の一人だと聞いた。憧れのトシさんとも一緒できるということで、参加を決めた。

このカナダクライミングには広島支部から3名、本部ユースクラブから2名、東海支部から自分と、そして現地にてトシさんとの合流で計7名のメンバーとなった。

カナダに行き、トシさんが出迎えてくれて「ようこそ、カナダへ」で本当に来た実感する。車でここから、1週間近く宿泊予定の場所まで移動する。日本では見れない広大な景色が広がって、ますますカナダに来た実感とこれからの山やクライミングに心を馳せた。

数時間近く、車を走らせると山が近くなってきた。暗くなり、ぼんやりとしか見えないが筋骨隆々とした岩であろうことは想像できた。この日は宿に着いて、明日の計画を話し合い床に就いた。

カナダ1日目、この日は簡単なマルチであるカスケードマウンテンのマザーズデイ・パツ



レイク・ルーズにて



マザーズデイ・パットレスの全景

トレスに行った。簡単とはいっても岩が脆く、決して油断はできないところだ。この日は自分はトシさんとロープを繋いだ。憧れのトシさんとロープを繋げられて嬉しかったことを今でも覚えている。全8ピッチで終了した。

カナダ2日目、この日はグラッシー・レイクの岩場に行った。この岩場の上部には野生のヤギの通り道があり、ヤギが落とした石が落石となり降ってくることもあるので気を抜けない。少しの時間だけヤギの大群が通過したためか、ひどい落石が連発する時間があった。

カナダ3日目はマルチでトンネル・マウンテンのグースベリールート全7ピッチに行った。ロープを繋いだ広島支部の方のナイスなクライミングで核心部を抜けた。

カナダ4,5日目はそれぞれ別の岩場に行った。特に5日目のレイク・ルイーズはカナダでも観光名所として有名で最高なクライミングであった。

カナダ6日目、マウント・ランドルのマルチに行ったが途中にルートの間違えて時間切れとなった。これも良い経験だ。



マウント・ランドルへのアプローチ

カナダ7日目、この日は休息日として各々のんびりと休んだ。

カナダ8日目、この日が最も長い11ピッチのマルチであるタカカウ・フォールという場所に行った。ここでは大滝のすぐ近くでクライミングができる素晴らしいルートだ。クライミングも易しく初心者でも行ける。そして、何と言ってもクライミングの途中に洞窟を移動する区間があり冒険心があった。



アサバスカ山への登頂

カナダ8,9日目、コロンビア・アイスフィールドへ移動して最終日にアサバスカ山という氷河登山をできた。クレバスの対処などトシさんの動きは大変勉強になった。

こうして、カナダのクライミングは終わった。また次も必ず行きたいと思っている。

行程

- 6/23 日本出国
- 6/24 カナダ着
- 6/25 マザーズデイ・バットレス (8P)
- 6/26 グラッシー・レイク岩場
- 6/27 トンネル・マウンテン
グースベリー (7P)
- 6/28 ハートクリーク岩場
- 6/29 レイク・ルイーズ岩場
- 6/30 休息日
- 7/1 タカカウ・フォール (11P)
- 7/2 コロンビア・アイスフィールド移動
- 7/3 アサバスカ氷河登山
- 7/4 カナダ発
- 7/5 日本帰国

『播隆上人祭』開催

支部長 高橋 玲司

本年8月20日(日)、岐阜県揖斐川町笹又の地蔵堂前にて、東海支部播隆上人祭が行われた。

10年近く前まで、東海支部単独で開催されていた播隆上人祭は、その後一旦途絶えていたが、昨年、高橋支部長が東海支部建立の石碑を再発見したことから再燃した。



播隆上人ゆかりの地蔵堂

「地蔵祭り」「播隆上人祭り」がコラボレーションするに至った。この地に石碑が建立された縁は、この地蔵堂の存在であり、幡隆上人ゆかりの阿弥陀如来が安置されている。地元では、いつしか地蔵堂と呼ばれ、「播隆地蔵祭」が行われていた。高橋支部長、前田副支部長が何度か地元との交渉を重ね、コラボが実現した。

東海支部としては、前日19日(土)から、ボランティア委員会、アルパインクラブを主力とした実行委員会メンバーが、支部長所有の「IBI base もりなり」に泊まり込み、地元の人たちと一緒に準備をした。前夜祭として、揖斐川町脛永の法幢寺とコラボし、お寺の本堂での音楽会を行った。東海支部田中進さんのギターと和尚のトランペットによる雪山賛歌で盛り上がった。20日朝には播隆上人にゆかりのある一心寺へ出向き、播隆上人の「『開山播隆和上』の銘文のある墓」を確認した。

当日は、前日組と合わせ、20名以上の東海支部員がお祭りに参加した。



祭りに参加した多くの地元の方たちと、東海支部員
東海支部からは、かき氷の提供、笹又地蔵祭り実行委員会からは、じゃがいも、お漬物、トウモロコシなどの新鮮な地場の惣菜が提供された。

笹又地区挙げてのお祭りと言うことで、貸切バスが地元民をお祭り会場まで運び、総勢80名以上の大宴会となり、地元光明寺の住職による読経、県会議員による挨拶も行われた。

次回は3年後となるとのこと。3年後の再会を堅く約束して散会となった。



東海支部建立の播隆上人石碑

広島支部・東海支部交流会

支部長 高橋 玲司

広島支部は、クライミングを基軸に若者が集まり活性化している。そんな話を年次晩餐会に聞き、無性に行ってみたくなった。2022年に御在所にて広島支部、本部ユースで交流し11月にも交流をしたが私は不参加。どうしても広島に行き見てみたい。2月に偶然八ヶ岳で広島支部の大田さんと出会い、提案した。快諾をいただき早速東海支部に持ち帰ったがここからが大変。「ロープクライミング」を青年部や学生に提案をしたところ「最近やってる人が居ない、やれる人が居ない」などと全く集まらない。危機感を感じる話が続出である。そして、「アルパインクラブの設立という選択肢」を選び設立した。

ユースクラブ、青年部、東海学生山岳連盟は年齢制限がある。私たち50代から見れば名前もすっかりこない。以上の観点から、年齢制限のない積極的なアルパインクライミングを志す集団を作るという発想に至った。

蓋を開けてみると、あっという間にアルパインクラブに20人を超える人が集まって設立にこぎつけ、何とか広島へ向かう5名も集まった。学生から支部長まで、年齢幅も大きい。

広島・東海支部交流会6月17日～18日

「三倉岳にて広島支部と交流」前夜岐阜・愛知から集まり、合戦の地関ヶ原に集合し出陣。広島の高度なレベルとの差、おもてなしに気後れさせられながら車を走らせた。「負け戦さですね」との一言で皆苦笑い、三倉入りであった。

6月17日は、やさしいと言われるルートに案内されるが、クラックとナチュプロのルートに難儀。三倉の難しさに直面した。三倉岳はスケールも大きく、景色も最高。広島支部の大田さんや大野君の案内で最高のクライミングをさせていただいた。



管理棟迄下山すると、東海支部・広島支部おもてなしの横断幕。森戸広島支部長も来られ、盛大なバーベキューの後、広島支部アマダブラム遠征報告、当支部の草野君の縦走の話などで交流を行った。

夜遅くまで盛り上がり、18日も簡単だと言いながら、全く登れないクラックルートに悲鳴を上げながら挑んだ。

今回広島支部のパワーのポテンシャルの高さに感動した。若いだけでなく、クライミングも巧くさらに安全にも配慮している。

今後、クライミングを介した交流は活性化の起爆剤になる事は間違いない。「アルパインクラブを作るという選択肢」は間違っていなかったと感じた。

さて、今後の進む道である。この灯を消さない為にも考えた。全国ユース交流会として、9月23日～24日御在所藤内壁にて「御在所フェスティバル」を催したり、東海学生山岳連盟による全国の大学生の交流も行う。クライミングするしないに関わらず、支部員の皆さんに是非参加してもらいたい。

さらに、11月3日～5日本部企画のユース交流会として、美濃加茂高木山及び伊木山で交流会が行なわれる。クライミングに関係なく、東海支部からの全国へのおもてなしとして、支部員皆さん参加、ご協力をお願いしたい。

「気候変動と自然環境保護・森づくり」

猿投の森づくりの会代表 和田 豊司

猿投の森づくりの会では自由な発言の下、会員の相互理解、環境・自然・生物多様性・SDG'sなど科学的基礎知識の習得、森づくりの方法などを議論する、関係する各界のスペシャリストから情報を得る等により個人の資質を高め当会の森づくりに生かす研修会（勉強会）を開いている。今回外部の方も含め32名の参加を得て、国連の気候変動に関する国連報告（ICCP）にも携わった近畿大学農学部松本光明教授を講師にお招きして講演していただいた。趣旨は次のとおりである。

近年の急激な気候変動（温暖化）は生態系（植物、動物）がその変化に適応できず地球規模の絶滅リスクを負う可能性があるとの認識がされるようになってきた。CO2を主体とした温室効果ガスの急激な増加が主原因である。対策しなければ2100年には気温が4.4度上昇し、海面が60cm上昇する。化石燃料からのCO2排出削減が最も重要で急務である。大気中の炭素増加は年間40億トン、そのうち熱帯雨林の農地化（森林減少）によるCO2吸収の減少が寄与する炭素増加が11億トンもあり世界レベルでの森林減少も問題となっている。



松本教授による講義

日本の森の炭素蓄積量は樹体、枯死木、落葉落枝、土壌でそれぞれ15.3、1、1.2、62.3億トンあり森の役割は非常に大きい。CO2の吸収能力は若い木ほど大きく、定期的な伐採が有効である。また伐採された木材のうち2割は



松本教授による森の見学

数十年にわたって建物、家具などとして長期間炭素として固定される。残りの8割は再生エネルギー源として燃焼分解や埋め立て（土壌化）処理される。木造家屋化や家具などの利用が炭素固定に寄与する。

森林の多機能性も近年再認識され始め（1）物質生産（木材として）、（2）生物多様性保全、（3）地球環境保全（CO2吸収）、（4）保健・レクリエーション、（5）快適環境形成、（6）水源環境、（7）土砂災害防止・土壌保全、（8）文化などに大きく寄与するので総合的な視点で森林管理・自然保全を進めることが必要である。

以上のような趣旨の講演であったがわれわれが身近に関係する気候変動の影響は

- ・動植物の適地は高標高へ、北へ移動（ブナ林の減少）
- ・動植物の移動による新たな競争（高山植物のシカによる食害）
- ・地域の生態系、希少種への影響（絶滅危惧種の増加）

等が登山活動や森づくりをしていても感じられるようになってきた。講演を聞いて森づくりの大切さが再認識でき、活動の動機付けや励みになった。



2023年7月

インド北西部・パンゴン山脈・メラック山群偵察

沖 允人

2018年から数回の探査・調査を行い、今年、メラック主峰(6481m)と数座の無名峰を偵察することができた。この記録が、パンゴン山脈の名前のある山で最後に残っている未踏峰・メラック主峰の初登頂につながることを祈念している。

インド高地出身でこの高度に慣れているガイドと運転手と私の3人は、ラダックの主都 Lhe(3700m)を車で出発し、Chang La(5300m)を越えてパンゴン山脈の南側にある Barma Villageの約3km、Chushul寄り、Chushulの約30km手前の車道から約200m下った草原に7月14日にBC(4725m)を設置した。飲料水は近くの川から得られる。

7月15日、午前8時35分に、ガイドがBCを出発した。天候は曇りで所々に青空が見えている。13日までは小雨の降る天候であった。雲の間に見え隠れしているメラック山群は、左から無名峰(c. 6200m)、無名峰(6255、登頂後 Little Merakと命名)、メラック主峰(6481m)、無名峰(6321mインド隊登頂)、無名峰(c. 6375m)、無名峰(c. 6375m)と続く。さらに2つほど無名峰(c. 6368m, c6368m)があり、パンゴン山脈の最高峰のKangju Kangri(6725m)につづいている。Kangju Kangriはメラック山群のもう一つ先の谷あたりからでないと思えない。

メラック主峰(6481m)と、Little Merak(6255m)の登路を偵察することにした。ガイドは約12時間で高度差約2000mある頂上を往復で

きるといふ。1日の登攀高度差約500mから1000mといわれる日本人なら途中に高所キャンプが必要である。ガイドは、BCを出発して30分で草原の上の台地に達した。Little Merakの登頂ルートはMerak主峰から西に延びている岩と雪の主稜線の雪のコルにMerak南壁の基部から登って雪稜に達し、主稜線を東に進んで山頂に達するのが最短だと思われたが、南壁上部からの雪崩の危険がありそうである。

比較的安全なLittle Merakの登頂ルートは、Little Merakの少し下の主稜線に岩と雪の枝稜線が2本、下部の雪原まで伸びているのでこのどちらかを採るのが傾斜はきついが距離は短くて雪崩に対しては比較的安全と思われた。2本の枝稜線は上部で合流することになる。

Merak主峰へはLittle Merakの山頂から雪稜をたどるか、Merak南壁を登攀するかである。

雪原の基部に約2時間で到着し、2本の枝稜線の左側をルートにとることにした。慎重にスタッカートで登る。非常に困難というほどではないが、はるか眼下にBCのある草原が見えていて高度感がある。1時間ほど登高を続けると、12時00分に主稜線にでることができた。少し休憩して先に進む。Little Merakの頂上に続く雪稜をたどり、12時50分に頂上に立つことができた。頂上は比較的広く雪と大きな岩があった。メラック主峰に続く岩と雪の稜線は厳しそうであった。風は少し吹いていたが雲は多くなかった。スマートフォンで写真撮

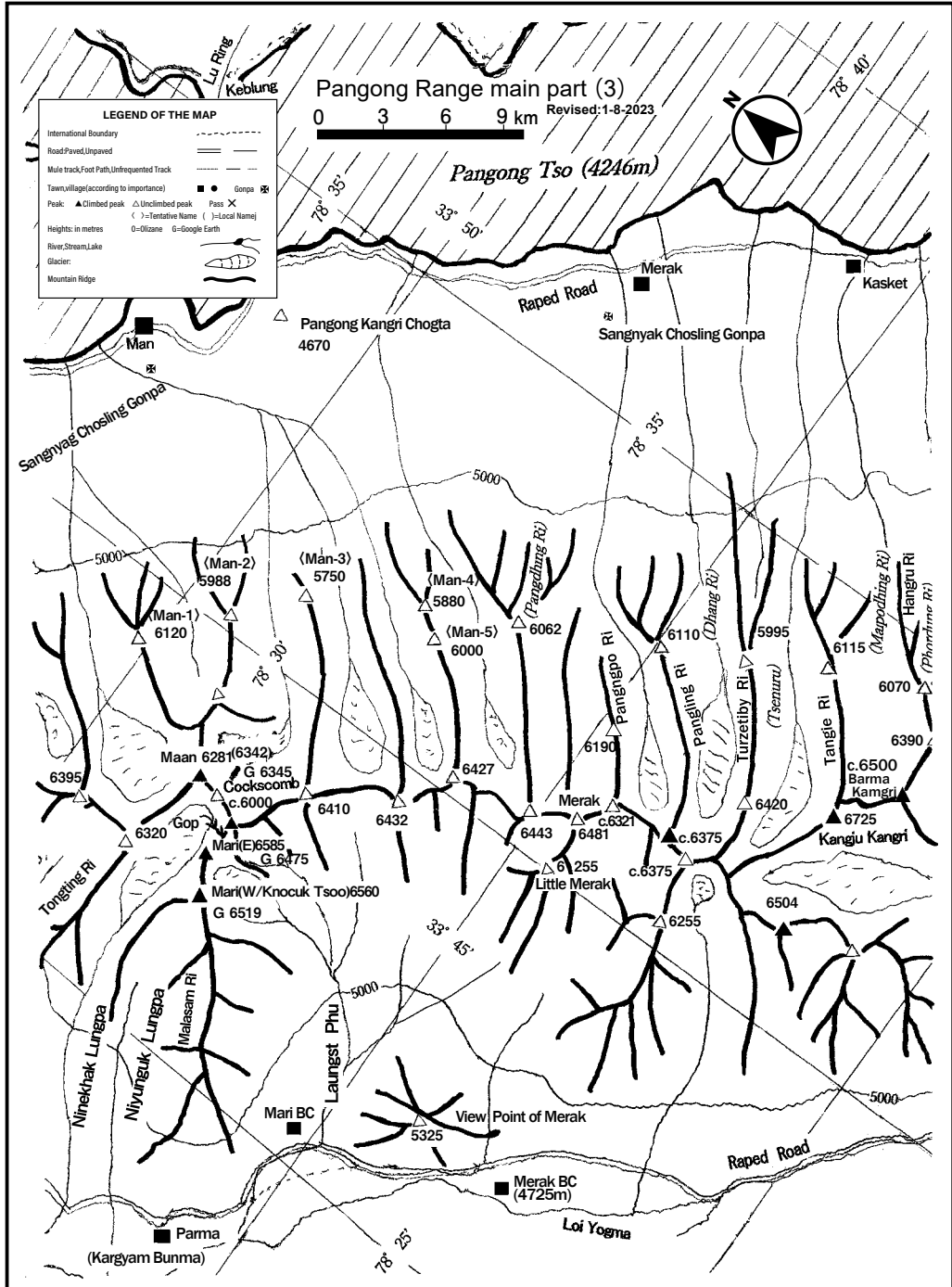


BCからメラック山群、左からView Point of Merak(Dome状, 5325m)、Little Merak(6255m)、Merak(6481m)、UP(角錐形6321m)、UP(c. 6375m)、UP(c. 6375m)、UP(c. 6370m)、UP(c. 6380m)

影をする。動画のパノラマ写真も撮影した。30分ほど頂上に滞在して下山にかかった。フィックスロープが欲しいところであるが、その用意はないので、慎重に下った。17時00分に雪壁の基部について、小休止し、草原に下っていった。岩がゴロゴロしていて歩きにくい、だんだん歩き良くなり、ラベンダーの

紫の花と特有の花の匂いがある。エーデルワイスの白い花も見掛けた。小雨がぱらつき始めた。雲も全天に広がってきた。BCに20時丁度に元気に帰着した。12時間近い行動であった。2日後にView Point of Merak (5325m)にも登った。山頂にはマニ石とタルチョーがあった。

Pangong Range main part 3



TOPICS 1

富士登山 2230 回登頂達成!!

ミスター富士山の愛称で知られる實川欣仲さん（静岡支部）。「フジサン」にちなんで 2230 回目の富士登山記録を今年の 9 月 10 日午後 2 時に達成された。同日午前 4 時、2 合目の水ヶ塚駐車場を同行者 10 名（内東海支部 1 名）と共に出発。須山口登山道を経由して頂上に立ったもの。宝永 6 合目小屋からは、新たに實川美樹さん（東海支部員、實川夫人）を含む 10 名が加わっている。

實川さんは、42 歳で初めて富士山に登り、これを契機に爾来 38 年、「今年 2023 年は富士山の世界文化遺産登録 10 周年でしかも閉山日のこの日に、丁度 80 歳で達成出来たことが、一番の感激だ」と語っている。

頂上では、記念撮影や他の登山者からの祝福を受けた後、富士宮口を下山。6 合目の雲海荘では、祝宴の準備が整っていて、関係者によるお祝いの会が催された。

2230 回の内、最高は一年で 248 回、10 年で 1400 回を記録している。また、まだ今年雪が来る前までにもう一つ記録を作るのだと。それは、80 歳で年 80 回登頂だそうだ。今回で 56 回、残るは 24 回。超人という外ない。呆れ返るばかりだ。（田中 進）

中央に實川さん、その左に實川夫人と田中



TOPICS 2

平出和也さん、中島健郎さん来名!!

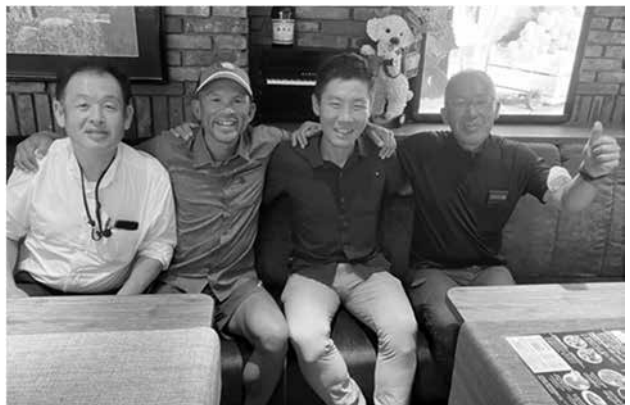
石井スポーツのイベントで、平出和也さんと中島健郎さんが、9 月 11 日に来名。良い機会ということでサイン会の終わった後、高橋支部長、今津総務委員長と 5 名で会食の場を持った。平出・中島のコンビは、今夏ヒンズークッシュ山脈の最高峰ティリチミール(7708m)北壁の初登攀に成功したばかりだ。話題は、ティリチミールの登攀、ピオレ・ドール賞、日本での岩壁登攀、次の目標などなど話しは尽きず、最終の新幹線の時刻を気にしながらの歓談に花が咲いた。

平出・中島のコンビは、ルンポ・カンリ(7095m)北壁、シスパーレ(7611m)北東壁、ラカポシ(7788m)南壁、カールン・コー(6977m)を登攀、そして今夏のティリチミールである。二人は、今や世界最強のコンビだと言って良い。

この二人、その凄まじい登攀記録からさぞや筋骨たくましい山男と想像されようが、豈囃らんや優男で、しかも礼儀正しいジェントルマンなのである。どこにその闘志が潜んでいるのか疑いたくもなる。

ちなみに二人の次の目標は、K2 の西壁だとか。ヒマラヤ登山は、どこまで進化するのだろうか。恐ろしくさえる。（N. O.）

左より 今津、平出、中島、高橋



山書蒐集夜話（その6）

安藤 忠夫

小島烏水著『日本アルプス』のこと、
造本のこと

本書、小島烏水著『日本アルプス』に限らず、近代登山黎明期の山岳書には、装丁、造本に贅を尽くしたものが少なくない。気品あふれる工芸品の匂い紛々たるもので、「書物文化の極みここに至れり」の感を強くする。大橋乙羽『歐山米水』しかり、日本山岳会『高山深谷』しかり、小島烏水『氷河と万年雪の山』、『アルピニストの手記』しかり、尾崎喜八訳『一登山家の思ひ出』愛蔵版しかり。まこと、100年から7～80年前の、製本技術の高さには目を見張らざるを得ない。勿論、この風潮、山岳書ばかりか、一般文学書、趣味本にも及ぶことは論をまたない。

『日本アルプス』は、明治43年7月第1巻を世に問い、大正4年7月第4巻の刊行に至っている。出版社は前川文榮閣、定価2円という当時としては随分高価なものだった。にもかかわらず以後、第1巻は大正11年に5版を、さらに縮刷版も刊行された。天金、菊判、上製本、差し箱、共に300頁ほどの大冊である。

表紙は第1巻織田一麿、第2巻中沢弘光、第3巻橋本邦助、第4巻織田一麿の木版画。見返しに鈴木錠吉、杉浦非水、武井真澄、中沢弘光を。扉絵には、丸山晚霞、中沢弘光、茨木猪之吉、織田一麿、といった一流画家の作品を、各巻に配すると云う豪華本であった。

本書を評して、小林義正はその著『山と書物』で、「印刷装釘に心憎いまで粋を凝らした点、まさに山岳豪華本の皮切りといえる」と記し、上田茂春著『山の本一蒐集の楽しみ』には「本邦山岳書のなかで屈指の芸術的香気に富んだもの」とあるが、むべなるかなの感がある。

現在私は、オリジナル本全4巻の他に、大修館書店が刊行した覆刻日本の山岳名著、それに小島烏水全集を蔵し、これらによって『日本アルプス』を目にすることができる。

日本アルプスと云う進取の名称は、つい先ごろ、4～50年前まではまだ一般受けしていなか



小島烏水著『日本アルプス』 第1～4巻

った。正確な地図なく、山岳情報なきに等しい当時である。近代登山は緒についたばかりで、登山行為そのものが困難を極めたことだろう。本書が好意的に迎えられ、勃興しかかっていた登山熱をさらに高揚させたこと、先導的役割を担ったことを容易(たやす)く推察できる。

私自身について振り返ってみると、本書に出逢ったのは、山書を前のめりになって蒐めていた頃である。30歳台後半から40歳台前半に相当するのだが、名著『日本アルプス』は読んでおかねばならないもの、記述内容を逐一知っておかないと恥ずかしい、とある種の脅迫観念に駆られて取りかかったものである。ところが何度挑戦しても、いつも途中で壁にぶつかってしまい、放り出してしまっていた。意識とは裏腹に、読みこなすだけの素養が足りなかったことも事実だろう。いずれにしても、名声だけではなかなか全編を読みきれない。

当時のそれは、大修館書店が刊行した小島烏水全集によった。

よって立つ登山環境とはあまりにも違っていた。大時代的なのである。開拓期の山登りの困難さが理解できず、記述が大仰すぎるように感じた。古くさを覚え、明日の山登りには役

立たないと思った。私自身が現役登山者を標榜していた時だったからなおさらである。

今にして想えば、その、読み切れなかった理由の一つに、当時手にしていたものがオリジナル本でなく、全集だったことも大きな理由ではないだろうか。書籍として惹きこむ力、魅惑、媚び、が必要ではないか。草花が蜂や蝶を惹きつけるように。

そんな時、まとっている衣装の色合いや柔らかな肌触りが大切な要素となり得る。そう言えば、出久根達郎が「本はその形も装丁も紙も活字も、帯に至るまで、作品の一部なのだ……」と記しているのを思い出した。全集にはそれが無い。読書という知的行為は、使命感や脅迫観だけでは没入しきれないようである。

時が過ぎた。私も、人として枯れたわけではないが、物の見方が変わってきて、いくらかなりとも視野が広がったことは確かである。改めて『日本アルプス』全4巻に目を通してみたいと思うようになった。開拓期の山登りの様子ばかりか、烏水が『日本アルプス』で何を語ろうとしたか、導こうとしたか。当時の時代背景はどんなだったか、どんな役割を担うことができたのか、などなどの興味がわいてきた。

と云うことで、再び緋(ひもと)く段になって、今回もまた、オリジナル本は、現在の保存状態を維持するためにフル出場を断念し、机上に置いて参照資料の役をさせることにした。代わりに覆刻日本の山岳名著の4冊を用意した。古書店で購入しなおしたもので、ゆえあって覆刻版を2組所持している。と云うのも、これもアンカット本だから、切り離して目を通すものと、原状保存するものである。読み終わったら親しい山仲間には譲ればいい。

まずペーパーナイフによる作業を要する。あらかじめ冊子の半分にナイフを入れ、それを読み終わると、残りの半分に再びナイフをあてた。そして、おもむろに、ためつすがめつ読み進めて行く。今度は何らの抵抗感もない。そればかりか、所々に配された挿絵、写真、図面が、ばかに光彩を放っているのである。興がのって久しぶりに読書を愉しめた。著者の興味の幅の広



木暮理太郎著『山の憶ひ出』愛蔵版 100 部本

いこと、多才な文章表現にも感心した。こうして全4巻に目を通すのに一週間とかからなかった。

ところが、読了してみると今度はナイフを入れた本の方に、愛着を覚えるようになった。手放すのが惜しくなってしまったのである。せつかく労力をかけて総ての頁を繰れるようにしたのだからと。今では別にしておいたもうひと組の、カットしていない本を譲ろうか、とさえ思わないでもない。

アンカットで思い出した。菟書仲間の大阪在住の吉田寛治さんが、かつて木暮理太郎著『山の想ひ出』愛蔵版を蔵しておられた。上巻昭和13年12月、下巻昭和14年6月に刊行されたもの。以来、一度もナイフが入ってなくて、吉田さんはそれが自慢だった。お酒が入り山書の話になるとよく聞かされたものである。やがて菟書の興味が薄れ人手に渡って行ったが、本書、これまで何人の手を経たかは分からないが、おそらく今もって頁を繰られることなく、本来の役目を果たさないままに、書庫の奥深くに愛蔵されていることだろう。

さらに今度は私自身の話。『復刻版・北大山岳部々報』全7巻(第一書房刊)はアンカット本である。これを読む段になって、始めは1頁ずつナイフを入れていたが、その作業によって読書が中段されてしまい、興がそがれるのである。ペーパーナイフを入れながら書籍をひもとく文化！ それは、ゆったりと時が流れ、豊穡な暮らしのひとコマだろうけど、私の生活環境では味わいきれるものではなかった。で、途中から前もって、全体にナイフを入れてから頁を繰ることにした。結局、その後に購入した『登

高行』の復刻本（山岳出版研究所刊）は、いまもってアンカットのまま、死蔵しているのである。

アンカット本の話ではないが、世の中には、箱、カバー、帯付き、の完本だけを蒐めている人がいる。中には、売上げ伝票、読者カード、出版見本、ちらし、出版目録、などの挟み込みも入っているもの、と云う徹底ぶりの人もあって、購入すると油紙で包んでしまっておくなど、風変わりな人もいると、ものの本に書いてあった。

小島烏水著『日本アルプス』全4巻は、烏水30歳台後半から40歳台のもっとも意気あがった壮年期の著書である。烏水の研究者・近藤信行氏の記述によれば、

明治6年12月、高松に生まれ、横浜商業学校卒業後、横浜正金銀行に勤務するかたわら、「文庫」社の記者として活躍、明治30年代の青年文壇にあって、文藝批評、社会経評、山岳紀行を発表。昭和6年日本山岳会初代会長、昭和23年12月没。（『日本の山の名著』自由 国民社刊、「氷河と万年雪の山」解題）

とある。そして、「……製本は専ら美術的な事を期し善美を極尽せり」（『山岳』第5周年紀年号所載、著者自身による広告文）と、著者の容易ならざる意気込みでもって、生み出された山書なのだった。

すでに刊行から100年を経た。この間、生活水準、技術進歩、文化活動のどれを見ても格段に進んだ。ひとつ出版界においても、当時とは比較にならないほどの進展を見せ、今では製本行程の合理化、作業の速さには目を見張るばかりである。出版洪水だと言われてからすでに久しい。誰もがいつでも容易に書籍を刊行できるようになった。

ところが、こと装丁、造本においてはどうかだろう。ほんの一部の特殊本はともかく、一般頒布の普及本においては、無線綴じ本、ペーパー・ボックス、文庫・新書などなどが、書店の棚を席卷しているのではないか。これら簡易製本の書物は、それぞれに近年の出版文化を支えてきたことは、まぎれもない事実なのだが、その一方で、ここでもまた、使い捨て文化、簡便思想に、蝕まれた結果だと云わざるを得ない。良心的な本作り、ほれぼれする善本は無きに等しいのである。

『日本アルプス』のような、後世まで語り継がれる山書、子々孫々に誇れるような本作りのなされる日が、再び戻るとはとても思えない。オンデマンド出版とか、電子書籍の普及も声高に叫ばれるようになった。書籍文化の行く末を憂えるのである。

（『日本アルプス』参考資料）

- ・第一巻 前川文榮閣 明治43年7月16日
318+13頁 定価2円
- ・第二巻 前川文榮閣 明治44年7月10日
304頁 定価2円
- ・第三巻 前川文榮閣 明治45年7月21日
294頁 定価2円
- ・第四巻 前川文榮閣 大正4年7月5日
317頁 定価2円

ある自費出版のこと

2003年の年の瀬のこと、中日新聞に自費出版された山書の紹介記事が載った。老医師の遺稿集で、入手をのがすと心残りになるからと、さっそく名古屋市内の丸善書店に出向き購入してきた。

三森嘉久雄著『アカヤシオの花に魅せられて』、397頁、B6、上製本、カラー10頁、200冊発行、頒価1800円、制作・丸善名古屋出版サービスセンター、というものである。

著者の晩年になってからの山行記だから、登山という視点からは、殊さら取り上げるまでもない内容である。失礼ながら、ご遺族の自己満足を満たす程度のものであろう。しかし、内容はともかく、パラパラと頁を繰っていて、気掛かりなことが出てきて、再び数日後に名古屋丸善へ出掛け、今度は出版担当者に会ってみた。

本書は、奥さんの三森孝子さんが、ご主人の手書き原稿と写真、カットを持ち込んで制作を依頼したもの。実際の編集作業は丸善の担当者がしたという。総費用は税込み257万5000円だったそうだから、一冊あたり約1万2500円ということになる。写真やカットを多数入れたので、少々経費が嵩んだ、との説明をうけた。

出版費用について以前、京都のナカニシヤ出版の中西建夫社長に聞いたことがある。A5、発行数1000部として、1頁あたり1万円を見積もると言われた。200頁の本ならば、経費200万円、1冊当たりの実費2000円ということであり、これを著者との話し合いの中で、出版社と著者の

負担割合を決めるということだった。

出版費用について詳しく知るところではないが、山と溪谷社やその他の出版社でも、大筋こんなところではないだろうか。勿論、一般出版物と自費出版ものを同列に論ずることはできないだろうが。なお、最近購入した白山書房の本に挟み込まれていた「自費出版の案内」には、四六判上製本、200頁、200部発行で、100万円（B6でも同じ）、となっている。

本書『アカヤシオの花に魅せられて』は、約400頁、印刷部数200で、おおよそ250万円だったが、1000冊ならばどうだろうか。印刷数が増えることによる経費の増額は、100万円にはならないだろう。仮に総計350万円とすれば、B6、写真多数であることも勘案すれば、本書の経費は大筋妥当なところ。決して、高額すぎることはないのである。

だが以下のことを問題視したい。本書は、紀行と写真、それにカットが所々に配され、2～3頁で一山としている。カラー写真は巻頭と巻末にまとめて入れてある。主要部の紀行が短文であったり、メモ程度のものであっても、故人の原稿だから加筆訂正するわけにもいかないのだから、それ自体はいたしかたない。

だが、写真の挿入箇所はすべて文末。中には、本文が数編前にあるのに、何ら関連のないところに突如掲載されているものもある。しかもすべてサービサイズで同一寸法、トリミングなし。ピントの合っていないものも多数ある。

どう見ても、単に空いた頁に、無理矢理に挿入したとしか思われぬ。同じくカットの扱ひも、工夫の跡は見られない。

本の編集について、私は素人だから多くを語

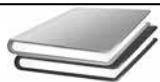
ることはできない。が、通常は適宜文中に、サイズを変え、見映えよくトリミングした写真やカットを挿入するのではないだろうか。勿論、これもセンスの問題で文末に配しているものも多数ある。が、こんなところが編者の力の見せどころだろう。まるでピントの合っていない写真は論外だ。

どう鼻屑目に見ても、本書の編集担当者がまったくの素人か、あるいは依頼人に出版の知識がないことを幸いとして、手抜き作業をしたと思わざるを得ないのである。少なくとも、ご遺族に本づくりの助言がなされた形跡はない。

書籍、ことに山の本には、そこはかとない品位がほしい。人格ならぬ書格がなければならない。出版を思い立った心情がにじみ出ているものでありたいのである。担当者は細部まで気配りして、心のこもった編集作業をすべきだ。ましてや少数部の発行とはいえ、一冊あたりの経費1万2000円余もかけた山書なのだから、それに見合った、出来映えある本に仕上げることは、出版社の最低限の責務であろう。だが、こともあろうに、天下の丸善(?)の仕事でありながら、この有様！ 腹立たしく思えてならないのである。

それにしても近ごろ思うことは、一介の登山者にとって、一番の道楽・浪費は、高価な山書や高級な山の道具を購入したり、外国登山にうつつをぬかすことではなく、自己満足にすぎない出版物を、ものすることではないだろうか、ということである。

註 本書の著者・三森嘉久雄氏には『木曾谷の山と街道』 昭和62年5月、岳洋社刊の著書がある。



東海支部の蔵書からの一冊③7

図書委員長 石田 文男

『名山スケッチ漫筆』

杉田 博著

これは大著である。

全3巻に収録されているのは110山、910の総頁数の別に110の絵を足した分量はすごい。すべてにその山の絵が1枚入っているが、現場へ赴きながらビューポイントを見つけ絵筆を執る労はいかばかりだったか。

10年余にわたって執筆と絵の製作をされ毎

月、機関誌に掲載されたものの総決算である。はじめは1冊のみのつもりで纏めようとされたが、ついこのような形になったと言われている。

これが出たのは2000年3月で、もう23年も経過しているのかと首を傾げる。30数年前に入会し例会のたび、山書の蒐集に尽きぬ情熱を滾らせる大家たちの話をただ脇で聞いているだけだった頃で、その月報に十年余連載され

たものが三冊になって著されたのが本書である。私が入会したそれは「日本山書の会」のことで、なが年の憧れであった。

パラパラ頁を繰っていると、どの山にもつい読みはじめていつしか引き込まれながら、8頁余りの終わりまで読んでしまう。

《駒ヶ岳と言っても同名異峰が十五山もある。それで、秋田駒とか会津駒とか、地名や国名を付けて呼んできた。これも信濃駒となるべきところだが、そうならなかった。山梨との県境に、もう一峰の駒ヶ岳、通称甲斐駒(2965m)があるからだ。誇り高い信濃国の人、四方に聳ゆる山々を国の鎮めにしている。たとえ国境の山であっても、甲斐国独占になる呼称を認める訳にはゆくまい。甲斐駒ヶ岳は東駒ヶ岳なのである。それで東駒に対する木曾山脈の駒ヶ岳を西駒とした。ともに伊那谷から見ての命名に違いない。

山名はともかく、両駒ヶ岳は全国駒ヶ岳の中で、高さ、風格ともに、まさしく東西の横綱で、番付どおりの名山である。伊那市民は朝夕、両駒ヶ岳を腹背に眺めている。羨ましい限りである》。長い引用になったがここまでは「駒ヶ岳」の冒頭文。

続いて、小島烏水の日本アルプスを三本のレンジに分けた話になっていく。《ところでその源の日本アルプスの名称だが、これは近代登山の父と言われるウォルター・ウェストンが名付けたものと思込んでいる人が随分いる。・・・上高地での山開き、ウェストン祭などが影響しているかも知れない。しかし、日本アルプスの名付け親は、明治五年に大阪造幣局に招かれて来日した英国人技師、ウィリアム・ガウランドとされている。ガウランドは在日十二年の間に、槍ヶ岳、立山、爺ヶ岳、野口五郎岳、乗鞍岳、御岳などの高峰に登った。・・・》

ここからは「あとがき」の一部を引用した。《本書ははじめにも書いたように『山書月報』に「名山スケッチ漫筆」と題して五十編ほど



書いてきたものの中から三十六山を選び、絵と合わせて画文集にしたものである。・・・おおよそ漫筆と言うからには、通勤電車の中で読める・・・こんな分厚いものにしてしまっては題名にそぐわない、と言えるかもしれない。二十ないし二十五山で纏めれば、まだ、読み易いものになったかも知れない。反省点である。

しかし、三十六は佳いものを集めるにはよい数字とされる。三十六詩仙、三十六歌仙、三十六峰などなど、昔から佳いものをくくるのに、ちょうどよい数と・・・。だが、そんなことはどうでもよい。重い本だからと言って、積んどく本にされては困る。読んで頂きたい。この点、著者の独りよがりで分厚くなり過ぎた、と言われるのは辛い。一人でも多くの人に読んで頂くよう願っている。・・・学術論文とは程遠い漫筆とはいえ、何か一つぐらいはお役に立ちたいというささやかな願いと言うか、遊び心からである》

さらにパートⅢ(第3巻)の「はじめに」からの抜粋、《パートⅢの編集も造本も、これまでの方法に倣った。違うのは三十八山収録した点で、前の二本より二山多くなっている。・・・一山一山の中身は、これまで同様、主に山史、山名考を中心に山の人文に随想を綴ったもので紀行ではない》とある。一山の文質量は8頁あり、特筆すべきは末文の〔注〕書きの参考文献の詳細である。著書・著者名・引用文・歴史などで、これらの収集(一部か)と目通し読破は大変なものはず。これらは本好きばかりでなく、山に登る人には大いに参考になる。

その山の歴史なり数多の知識をもって登る意義は大きい。ぜひ、一読したい。

薬師岳も瑞牆山も、伊吹山もこの書を・・・出かけよう。叶うことなら。

※

著者の杉田博氏は東海支部員の重鎮。ヒマラヤなど海外の登山、専門の絵画、こと山書には造詣が深い。「日本山書の会」所属。

支部の蔵書に入っているのは、この第1巻(パートⅠ)のみである。

他に、『山書研究』43号上製本・230部、著者肉筆淡彩画2枚入特装本・限定30部が出

版されている。後、続編が編まれて第1巻同様の上製本、特装本が製作されている。

第2巻(パートⅡ)『山書研究』46号：別装、2003年発行。36山収載。

第3巻(パートⅢ)『山書研究』48号：別装2006年発行。38山収載。

『山書研究』43号別装本

A5判 293頁 発行：2000年3月31日

発行所：日本山書の会

発行：平成4年3月28日

ナカニシヤ出版

会員の広場

同好会紹介コーナー

スケッチクラブ 渡邊 康夫

三河湾・日間賀島—高速船で風を切る

7月19日、スケッチクラブの6名で日間賀島へ。混雑する駅での集合では、毎回のように珍事が起こりますが、それも笑い話に変えてしまうスケッチクラブは最高です。

今回の集合場所は、時間と車両を指定した電車内で、これを考え出した幹事さんには脱帽です。ちょっとした緊張感で電車に乗り込むと、馴染みの顔が待っていて、後は河和駅までおしゃべりで電車の旅を楽しみます。

島へは高速船に乗り換えますが、デッキに立つと、風を切って走る爽快感で暑さも忘れます。島に着くと昼食までの約1時間半を利用して、各自スケッチポイントを探しに散らばりました。

平日で人も少なく、日陰の無い港をウロウロするこの気怠さも、熱中症にさえ気を付けていれば悪くありません。観光客・サザエを捕る人達との楽しい会話の後、東海岸の食堂に集合。美味しい海の幸を頂きながら歓談しました。

帰りの船便までの約3時間がスケッチタイム、各自目指した場所へ散らばりました。私は自転車を借りていろいろな所を見て回りました。漁港の船も良いですが、島は坂が多く神社も面白いなど…描き出すとあっという間に時間が過ぎました。

クーラーの利いた港の待合室に集合、いつもの作品披露を終え帰路に付きまして。いつものながら発見の多いスケッチクラブ小旅行、描く対象として物を観るからなんでしょうかね？今



日間賀島・西港棧橋で

日も楽しいスケッチの旅を楽しめました。

第9回 作品展

お陰様で、1年の集大成・作品展は、9回目を迎えることが出来ました。お誘い合せのうえ、是非ご覧下さいませ。

期間：2023年10月11日(水)～15日(日)

時間：9:30～16:30

*11日は13:00から

*15日は15:00まで

会場：名古屋市市政資料館3階第5展示室

交通：地下鉄名城線「名古屋城」駅

2番出口を東へ8分

代表：石井 仁

事務局：村中征也・岩田智与子

山岳写真展の愉しみ

支部員 杉浦 吉治

「薄明りの中から雪化粧したチンネの先端がほんのりと赤くなり、やがて八ツ峰の上部から中央部にかけて真っ赤に染まりながら、鏡のような仙人池にその姿を映し出してゆく。

山の美しさと神々しさに引き込まれ、足の先から感覚が消えてゆくような寒さもしばし忘れて夢中で愛機のシャッターを切り続けた」



杉浦吉治 個展 「立山・剣」

感動する心(いつまでも持ち続けたい) 杉浦吉治 個展 「立山・剣」 11月10日(土)～11月12日(日) 18:00～21:00 会場 立山・剣 山岳写真展 会場 立山・剣 山岳写真展 会場 立山・剣 山岳写真展

山岳写真展案内状

これは、私が現役時代に名古屋市内のワキタギャラリーで開いた全紙29点、全倍5点、計34点による山岳写真展の会場における挨拶文の冒頭である。また、個展のタイトルは「杉浦吉治 山岳写真展 『立山・剣』 ～感動する心

をいつまでも持ち続けたい～」とした。

あの個展開催時の興奮と感動の余韻が、今でも思い出すたびにまだ延々と漂っている。

開催初日のオープン直後、「おめでとう！」と声を掛けてくれたのは中学時代のクラスメイト。なんと、東久留米市から朝一番の電車で駆けつけてくれた。他に中学や高校の大勢の友人たち、まるでミニ・クラス会やミニ同期会だ。

「高校時代から未だに登山を続けているのは杉浦君だけだな」と高校の山岳部でお世話になった恩師。つい先年まで「東海岳人写真展」他の山岳写真展にご来場いただいていた。

「どうしても観たいし、杉浦君に会いたいかから明日会場にいてくれよな」と上越市から電話を架けてくれて、約束通り翌日は10数年ぶりの再会となり、話に花を咲かせてくれた大学のゼミ仲間。

また、開催20年前に東京の研修で知り合っ

て以来、家族ぐるみでお付き合いしている松戸市から車でやって来てくれたある都銀行員夫妻。

「杉浦さんの個展に合わせて休暇を取ってきました」、と当時NY支店勤務の後輩。

さらに、最終日には開催数年前に剣岳・池の平小屋でお酒をご馳走になった中年の登山者が、「あのときのよりうまいのを持ってきたがやチャ」、と言って富山の銘酒一升瓶2本を大切に抱えて宇奈月から休暇を取ってまでしてご来場いただいた。思いもよらぬ再会に感動の嬉し涙・・・。

また、会場のあちらこちらで嬉しいささやきが聞こえる。「ねえ、お爺さん、ここ(立山頂上)まで登ったわねえ」、と目を潤ませながら連合いに懐かしそうに話しかけている。これを聞いてもらい涙だ。

「多忙な仕事の合間によくここまでやったものだ」、と監督官庁・東海財務局の管理職。褒められているのか、皮肉を言われたのか?しかし、本省へ転勤されたその中の1人とは退職後もお付き合いが続いており、毎年上野の都美術館で開催の「日本山岳写真協会(JAPA)展」へもご来場いただいている。

以上の他にも、職場の先輩・同期・後輩、支店勤務当時のお客様、山で知り合った仲間、家族の友人・知人、ご近所の住人、通りすがりの人々等、6日間で約2,000名の方々にご観覧いただいた。まさに感動と興奮の6日間だった。

さらに、ご来場者からは、「山の美しさと雄大さを実にダイナミックにとらえています。特



挨拶文と作者のプロフィールの前で

に光に対するセンスが優れていると思います」、
 「素晴らしい写真を見せて頂き、心がゆたかになっ
 てもとても幸せな気分になりました」、「個展の実現、誠におめでとうございます。現役ではなかなか出来ない事です」、「写真もタイトルもピシッと決まり、作者の人格が表れているようです」、「50歳のバースデイに実現とは本当に大きな意義があります」、「仕事と趣味を見事に両立させた貴兄の努力と、それをじっと背後からささえた奥様のやさしさを我々も見習わなければ、とっております」、「懐かしく拝見しました。1934年、平蔵より（劔岳へ）登った者です」、「人生、こうしたことに打ち込むのがいちばん幸せだと感じました」、とこれら100通近くの感想文をいただいた。これ以降、毎年誕生日を迎える毎に読み返して感動と感謝の気持ちを忘れないように心掛けている。



左から、坂倉中日新聞写真部長、筆者、鈴木（デカさん）
 JAC先輩、モミジヤカメラ店戸谷社長

実は、40代の半ば頃、退職後は生きがいと健康維持のために山岳写真を撮って個展を開催してみようかと考えていたが、「サラリーマンの現役中にやった方がずっと意義がありますよ」、という長年お世話になっているカメラ店の社長（大学時代は山岳部）ご夫妻の強いお勧めで、開催が10年以上も早く実現した。それなら満50歳の人生の節目でやってみようか、と決断したわけである。それ故に案内はがきには、年齢と勤務先を記載し現役サラリーマンであることを明らかにした。

当時、私はJAC入会前だったが、開催に当たっては、ご縁があって当支部の大先輩であった鈴木重彦さん（通称デカさん・故人）のアドバイスもいただいた。それは中日新聞へ写真機材



「新雪のハツ峰と三の窓雪渓」の前で

を納品しているカメラ店社長を通じて坂倉写真部長（当時）と鈴木重彦さんを紹介していただいたからだ。これがきっかけで、退職後はJACへ入会しようと決めていた。

満60歳で退職してからは、JACや日本山岳写真協会（JAPA）に入会し、地元名古屋のみならず、毎年開催される東京、京都での写真展でも同じような愉しみと感動を大勢のご来場者から頂いている。何と幸せなことか！

そもそも山岳写真の愉しみは、一つは山登りの愉しみ。二つ目はファインダーを覗き感動とともにシャッターを切る時の緊張感と充実感。三つにはラボから仕上がってきたポジ・フィルムをブライトボックスに載せてルーペで出来映えを目にする瞬間（デジカメの時代になってからは、データをPCに取り込んで画面を拡大したとき）の不安と期待の入り混じったトキメキ。そして四つ目には、お世辞と分かっているもプリントした作品を褒めていただくときの喜びであろうか。

加えて、退職後の山岳写真展の愉しみは、何といても多くのご来場者との語らいだ。趣味は、人生を豊かにしてくれる！



山道具は最初が肝腎

装備委員会委員長 千葉 泰丈

今、山を愛してやまない人はきっと最初に登った山が特に印象深いものだったに違いない。だから今も山をやめられないというわけではないかと思っっているのだが。あなたにとって最初に登った山は？と聞かれて〇〇山だったよと、誰もが答えることができるはずだ。

私の場合は、運転手兼付き添いとしてつぶしがきくのはお前ぐらいだろうと言う様な感じで指名が有って仕方なく行ったのが初めての山登りであった。それまで登山は自分に縁の無いものだと思っていた。しかもそれが北アルプスの小屋泊まりの縦走。北アルプスの経験豊富なリーダーがいたので、ある意味怖いもの知らずのまま行くことになったのである。その結果は、3000mの稜線の縦走途中から雨が降ってきてエスケープして下ることになったので、本来の計画通りにいくことは無かったのだけれど、いきなり3000mに登頂してしまったのは確かである。

その時登山の経験など無い私にとって、山に行くことになっても山の道具など一切ない。当たり前である。登山道具を新しく買うという発想も無かったという事で、現役の大学山岳部員の使っている道具を借りていくことになった。借りた道具というのが、登山靴は靴底が全く曲がらない岩登り用の革製クレッターシューズ。ザックは帆布の一本締め30ℓ、雨具はゴム引きで着ると必ず蒸れる、そして重くかさばる代物だった。ウェアはスポーツ用のウェアを自分で持っていたのでそれで行くことにした。

借りた登山靴は、私の足が25.0cmなので本来は暑い靴下を履いて1サイズ大きいサイズの25.5cmの靴でなければならなかったのだが、借りた靴はジャスト25.0cmの靴。そして靴底が曲らない靴であったために山から下りて来た時には両足の全部の指の爪が真っ黒で、かかとはは両足とも大きい靴ずれが出来て血がにじんでいた。

そして、稜線で雨が降り出したので雨具を着て行動することになるのだが、自分の汗で濡れたのか雨で濡れたのか分からないほど体全身がびしょびしょ。その当時は既にゴアテックス



が出回り始めていた頃だったが、グループの中の一部のお金持ちの中高年の人しかゴアテックスを持っていなかったのである。麓にたどり着いて、雨が晴れて雨具を脱いだ時に自分の着ていた雨具とその人が着ていたゴアテックスを比べて、ゴアテックスを着ていたその人のウェアは、蒸れて濡れてはいなかった。全身びしょ濡れの自分と比較してなんて良いのだろうと非常に羨ましく感じたのであった。しかし逆に考えると、自分の着ていた雨具は蒸れる性能の良くないものだったけれど、そして借りた物ではあったが、まだ雨具を持っただけまだましと考えれば命が助かってよかったなど考えることもできる。

後で学習したのは、夏山と言えど3000mの稜線で雨に降られると命の危険が有るといふ事。蒸れる雨具ではあったが持っていたのでラッキーだったと考えることができるかもしれない。若かったせいで体を感じる負担を物ともしない元気が有ったのかもしれない。最初にこんな経験をした人間が山をやめないでいるのは馬鹿で懲りることを知らないのか、登山の魅力にはまってしまったのか。両方では無かったのかと思う。

その頃から道具の進化は進んでいて中年になった今も山に行くことができているのは性能の良い道具が有るおかげだとあらためて感謝している次第である。

山行委員会だより

●支部山行リーダーを担当して

支部山行のリーダーを務めることとなり、はや3回の山行を行いました。3回目は奥三河の上臈岩・百疊岩です。毎回、どんな山を選定するのか悩ましいのですが、今回は眺めも素晴らしく、岩場もあり、地図読みにも適しているこのコースを選びました。

朝のうちは黒い雲や霧もあり、お天気を心配していましたが、段々と天気は回復し、気温もぐんぐん上がり結果、とても蒸し暑く体力を消耗する一日となりました。

今回のテーマとしては①現在地の確認。チェックポイントを9つ用意した。②岩場の安全な登下降。上臈岩にロープの付いた5mぐらいの岩場があるので、そこに至るまでにちょこちょこ現れる岩場で岩慣れをする。③体力の確認。標高は500mにも満たないが、小さなアップダウンを繰り返し、とどめは沢まで下りた後に150mを一気に登る。疲れてきた後半にはちょっと試練の登りである。「このまま沢を下りて下山することもできますが、どうしますか？」の問いに参加の皆さんは笑顔で登り返しのコースを選ばれました。素晴らしい気力と体力です。

山行リーダーは下見をしたり、コースをあこれ考えたりと、当日を迎えるまでは、悩むことも多いですが、山行での出会いは一期一会と考え、参加された皆さんにも楽しい、また行きたい、と思えるような山行にしたいと思います。

(池戸 美恵)

●『阿木川本谷 沢登り山行』に参加して

私には久々の支部山行となる『阿木川 本谷 沢登り山行』に参加しました。沢登りは自分のレベルでは計画、催行するのに心配があり支部山行HPを確認したところ、人気の高い渡邊リーダーの沢登り山行に運良く申し込むことが出来ました。

阿木川は初めて沢登りを体験したルートで、「前回巻いた所も今回は」と意気込んで臨んだものの梅雨時のせいか水量が多く、前回以上に巻くことになった。しかしながら高巻きのル



ートの見極め方を指導いただきながら進み、あるポイントでは無理をせず大きく巻いて再入渓ポイントを探しながら林道を進み、大きな支流から先の状況を見極めつつピッチを進め、懸垂下降(2回)で再入渓したり

と、今までにない『巻き』の経験が出来ました。

沢登りにおける巻きの危険性については認識していたつもりでしたが、つつい早く戻ろうと無理をしがちであり、そもそも巻きは楽しくない(苦行)と思い込んでいました。

今回、あらためてそのリスクを認識するとともに、巻きを楽しむことを学ぶことが出来た山行でした。また、機会を見つけて参加させていただきたいと思います。

(太田 重成)

●『雲ノ平山行』に参加して



北アルプスの秘境、雲ノ平での憧れのテント泊の山行計画を支部山行ホームページで見つけ、早速申込みました。

勢いで申し込んだものの、経験の浅い支部友員の私が参加することでチームを乱さないか、熟練の支部員の方々に迷惑をかけてしまうのではないかと、そもそも共同装備を背負って長い距離を歩くことができるだろうか、と後から不安な気持ち

が湧いてきました。

今回は事前にオンラインミーティングがあり、山行計画、装備表、天候に応じた山行パターンをはじめ、テントの配分、ご飯のメニューや買出しの食材の打合せ等を行いました。前もってチーム内で情報共有し、疑問点等を話し合うことで不安な気持ちはいくらか和らぎました。このように自分達で山行を作り上げる感じは、ツアー登山にはない面白さでした。また、これまで単独登山が多かったのがグループ登山が不安でしたが、参加メンバーはどの方もフレンドリーに迎えてくれて、疎外感やアウェイ

感は全くありませんでした。

二日続けて午後から雷雨のため、雲ノ平のテント泊は見送りましたが、立山連峰の主要峰である薬師岳の360度絶景のピーク、目前に広がる流線型の美しいカール、夕立ち後の目の覚めるような夕焼け、美味しい手作りご飯を堪能できました。会話を楽しみながら山を歩くのはもちろん、テントでお酒を酌み交わしながらの山談義はとても面白く、大変思い出深い山行になりました。雲ノ平山行リベンジ企画を熱望します！

(河合 泰代)

【ボランティア委員会】

猛暑の、ひまわり登山

9月3日(日)、阿智7サミットの一つ 高鳥屋山(1398m)で、ひまわり登山が行われた。

ひまわり登山は、東海支部員、支部友会員の視覚障がい者を対象として、年3、4回行っているブラインド登山である。現在6名の視覚障がい者の方が在籍している。



暑き中の登高



高鳥屋山山頂にて

当日は、ブラインド登山者6名、パートナー9名の総勢15名が参加した。

清内路の近く、松沢登山口からの尾根コースで、美しい森の中、緩やかに登っていく。登山道は、登り易く、猛暑の中、全員無事下山した。

11月には、一般公募の視覚障がい者も含んだブラインド登山が、富暮山で開催される。

ボランティア委員会委員長 前田 隆久

支部友コーナー

◆支部友委員会山行計画(令和6年1月~3月分)

1月7日(日) ☆

山域：愛岐丘陵 山名：鳩吹山

統括リーダー：尾上 昇 リーダー：田中 進

1月8日(月祝) ☆☆

山域：焼津アルプス 山名：満観峰

リーダー：今津 英一朗

1月13日(土) ☆☆

山域：紀伊山地 山名：朝熊ヶ岳

リーダー：奥野 明美

1月21日(日) ☆

山域：袋井・掛川市 山名：小笠山

リーダー：近藤 政仁

- 1月27日(土) ☆☆☆
 山域：鈴鹿 山名：御在所岳
 リーダー：高松 信治
- 1月27・28日(土、日) ☆☆
 山域：長野 山名：乗鞍高原・上高地
 リーダー：金谷 正起
-
- 2月3日(土)☆☆
 山域：鈴鹿山脈 山名：嶽不動・兎の耳
 リーダー：田中 進
- 2月4日(日)☆☆
 山域：南信州 山名：高峰山・長者峰
 リーダー：今津 英一朗
- 2月11日(日)☆
 山域：岐阜北部 山名：百々ヶ峰
 リーダー：倉橋 智司
- 2月17日(土)☆
 山域：滋賀県野洲 山名：三上山・近江富士
 リーダー：磯部 隆
- 2月18日(日)☆☆
 山域：恵那 山名：富士見台
 リーダー：久野 輝美
- 2月25日(日)☆☆
 山域：鈴鹿山脈 山名：藤原岳
 リーダー：近藤 政仁
-
- 3月7日(木)☆
 山域：渥美半島 山名：田原アルプス衣笠山
 リーダー：田中 進
- 3月10日(日)☆
 山域：愛知県 山名：猿投山
 リーダー：久野 輝美
- 3月16日(土)☆
 山域：瀬田・三雲 山名：金勝アルプス
 鶏冠山・竜王山
 リーダー：川崎 禎明
- 3月23日(土)☆☆
 山域：奥三河東栄町 山名：三ツ瀬明神山
 リーダー：近藤 政仁
- 3月30日(土)☆☆
 山域：奥三河新城市 山名：上臈岩・百畳岩
 リーダー：池戸 美恵
- 3月31日(日)☆
 山域：瀬戸 山名：物見山
 リーダー：金谷 正起

<申込み開始>

支部友会員は山行日の3か月前から、優先は1ヶ月です。支部会員は山行日の2か月前から、

山行の募集人員を超えない範囲で参加申し込みを受け付けます。

次回支部友ミーティング 開催内容のお知らせ

「予告」第60回 10月14日(土)15日(日)
 テーマ：「朝明ミーティング」 朝明茶屋
 1日目 分散登山(鈴鹿連峰)夕食 バーベキュー
 2日目 実技講習開催 午後解散
 「予告」第61回 12月12日(火)
 テーマ：「忘年会・新入会員歓迎会」
 一年間を振り返り山行を語り親睦を深め合います。
 場所：レストラン リビエール(セントヒサヤビル10F) 名古屋テレビ塔前
 会費：3,500円予定
 支部友会員数(令和5年8月末現在)／64名

リーダー連絡先

尾上 昇 FAX：052-832-3878
 メール：onoe@onoec.co.jp

金谷 正起 携帯：090-9931-3600
 メール：kanaya.masaki@rouge.plala.or.jp

榊 将美 携帯：090-7237-4410
 メール：m.sakaki@minds-consulting.jp

村瀬 恭平 携帯：090-4186-9876
 メール：hoshizakari@docomo.ne.jp

田中 進 携帯：090-9191-8666
 メール：t-susumu@peace.ocn.ne.jp

今津 英一朗 携帯090-2616-7549
 メール：imazu.eitirou@maroon.plala.or.jp

磯部 隆 携帯：090-9180-7245
 メール：takass@yk.commufa.jp

高松 信治 携帯：090-3156-5268
 メール：takama2nobu3@yk.commufa.jp

松本 陽子 携帯：090-7859-4031
 メール：yo-kom@nifty.com

水野 猛志 携帯：090-5866-3781
 メール：r34668@bma.biglobe.ne.jp

近藤 政仁 携帯：090-2183-8125
 メール：yft55ud55@gmail.com

倉橋 智司 携帯：090-8673-7180
 メール：ilyt6by8@qc.commufa.jp

奥野 明美 携帯：090-9923-4292
 メール：tac-okuno@mbi.nifty.com

川崎 禎明 携帯：090-2131-7695
 メール：y.kawa715@gmail.com

久野 輝美 携帯：090-7575-4521
 メール：kuno4895@hotmail.com

林 康太郎 携帯：090-2949-0544
 メール：koutaropippi@gmail.com

遭難対策委員会からのお知らせ

地図読み(地図からリスクを読み取る)講座を開催します。

内容

講師：山田 明美氏(前遭難対策委員長)
(座学)

日時：11月10日(金)

場所：支部ルーム

募集：20名程度

(確認登山)

日時：11月12日(日)

場所：座学で検討した山に実際に登ります(山調整中)

募集：10名程度

遭難対策委員長 高松 信治

自然保護委員会からのお知らせ

「上山路川遡行」の実験計画(概要)

目的：猿投山の源流部の観察、自然環境の変化の確認とゴミ回収。

場所：猿投山西麓 上山路川

期日：10月9日(日、祝日)

集合：中電パワーグリッド瀬戸変電所入口前(瀬戸市山路町)に午前9時30分

申込締切り：9月20日厳守

募集：10名程度

持ち込み物等の詳細は、参加希望者に伝えます。

申込み：石原委員長まで

自然保護委員長 石原 俊洋

東海支部メルマガ登録のお願い

東海支部ではメルマガ「東海支部だより」を毎月1回発信して支部からの連絡、行事の案内や各委員会からのお知らせなどを支部員・支部友会員の皆さんに配信しています。また急ぎの連絡を臨時発信することもあります。

このメルマガは登録した希望者に配信されます。**ぜひ登録してください。**

登録は東海支部のホームページの右側メニュー「支部メルマガ読者登録」で簡単にできます。登録が出来ない場合は総務にご相談ください。

登録ページ URL：<http://jactokai.sakura.ne.jp/shibuhp/modules/pico02/index.php/content0004.html>

支部からのお知らせで～す。



60周年記念事業として「東海山岳12号」を発行しました。

書籍とCDがあります。

価格はどちらも3,000円＋消費税です。

購入を希望される方は、支部刊行物編集委員会の委員に申し込みをお願いします。

メールでのお問い合わせは

khoshi@katch.ne.jp

星 一男までご連絡ください。



会 務 報 告

【2023年6月常務委員会】

日時:6月29日(木)19時(ZOOMとの並行開催)

1. 支部長挨拶 (高橋)

・昨日は東海支部の基礎を作った前副支部長の柴田清康さん三回忌の命日だった。有志で偲ぶ会を開催した。

・二つのプロジェクトに取り組む。一つは財政健全化。決算が大幅な赤字になった。もう一つは支部の活性化をしていく。

・常任委員会の報告は割愛し審議に時間をかける場にする。

・6/17~18 広島支部交流登山に5名参加。若い人が多く技術が高く仲がいい。9月のゴザフェスは広島支部をお招きするので多くの方に参加してもらいたい。

2. 総務委員会 (今津)

・夏フェスは5,000名を越える入場者があった。

・経費節減のため電子メール会員への移行と、ガイドブック2023のPDF化のお知らせのプリントを支部報174号6月30日発送時に同封する。希望者にはPDFのコピーを渡す。

・ヤマトプロジェクト、支部運営費の寄付のお願い。

3. 播隆上人地藏祭り (高橋、前田)

・揖斐川町春日に東海支部が建立した播隆上人を記念する石碑がある。8/20(日)播隆上人地藏祭り東海支部が協賛。8/19(土)スタッフとして準備、近くの法幢寺で納涼音楽祭。【IBI base もりなり】で宿泊。8/20(日)祭りに参加。多くの方に参加していただきたい。

4. 愛知山岳連盟 (鈴木絵美子)

・6/20 学連理事会開催

・毎月勉強会を開催している。5月は猿投で読図講習。年会費1,000円で入会できる。

・本年度は栗木氏が副会長。

5. 支部友委員会 (金谷)

・10月の朝明ミーティングについて審議。

・夏山フェスタで74名が記名した。その中で説明会に参加したのは30名、入会は20名ほどになった。男性は70代、女性は50代が多い。

6. 山行委員会 (稲葉)

・支部HPに山行予定を掲載している。参加しない支部員に参加してもらえよう情報を改善し発信していく。

7. 亀の会 (村瀬)

・LINE活用【運営委員のみ】のLINEグループ作成。

・LINEパソコン活用講習会開催、補修講習会も開催。

8. 猿投の森づくり (和田)

・気候変動と森づくりの関係についての話ができる講師を探している。何人かの候補者の名前が出たので直接メールで交渉する。

・山桜フィールドにある粘土を間伐材を使って野焼きの土器づくりの実験をした。8月にも実施、JACに参加依頼。

9. トレッキングクラブ (服田)

・HP、夏山フェスタでの応募者20代30代40代50代全員女性4名、7/2 春日井三山、新人体験山行実施。

10. アルパインクラブ (高橋)

・広島支部交流登山に参加。

・7月三連休は北鎌ヶ岳の西陵に行く。

・カナダに草野さんが行っている山田利行さんと登っている。SNSを見てください。

11. 青年部 (荒木)

・夏の沢登合宿の事前講習6/18、6/25行ったが天候悪く中止。7月以降にもう一度調整。

12. 東海学生山岳連盟 (鯉江)

・5月に総会実施、参加者が少なかった。早い時期から告知すればよかった。

・9/23~24 ゴザフェス 15人以上参加予定。東海支部の祭典として盛大に盛り上げたいので多くの方に参加してほしい (高橋)

・青年部所属の支部員から装備の寄付があった。学生の希望者に譲ったが冬山の装備は秋以降に希望者に配布する。

13. 登山学校 (服田)

・登山学校7/8、第6期修了式と7期入校式。

14. 自然保護委員会 (石原)

・委員メンバーは10数人いるが、委員会には通常6~7人の参加。

・支部との交流促進のため、7月14日予定の霧ヶ峰の八島ヶ原湿原山行に限って、支部の参加希望者を受け入れることとする。(その後のメ切後、自保委員会への入会希望の参加なし、メンバー6人で実施。)

15. 海外登山 (高橋)

・山田利行さんはカナディアンロッキーに行く

ている。

- ・広島支部との交流に参加したが広島支部とのレベルの差は明瞭だった。
- ・未踏峰マウントフォレ登山隊、本部申請済み本部からの助成あり。支部から助成と寄付で支援する。

16. ボランティア委員会（前田）

- ・視覚障がい2級の方が東海支部に入会、ボランティア委員会に所属。支部の視覚障害者5名になった。全国的に見て東海支部だけ。
- ・視覚障がい者の支部費は減免の規定を検討して来年の総会に因る。

17. 遭難対策委員会（高松）

- ・HP から登山届ができるようになったが個人山行でリスクチェック表のみ提出や中身の提出がない場合がある。
- ・HP に遭難レポートを載せていく。

18. 写真展実行委員会（岩月、井上）

- ・会場費助成の在り方について討議された。（※委員会費はない）
- ・支部予算の収支によっては全額助成ができないかもしれない。次回開催へ向けた経費捻出の工夫を検討要。

19. 技術向上委員会（清水欠席、代理今津）

- ・11/19(日)15:00~16:00【登山における疲労を考える（仮称）】三浦裕氏による講習会

20. 古道調査（西山）

- ・尾鷲古道5/1~5/2に西山氏一人で終了した。支部報で報告。
- ・2024.5/18~19 各支部が熊野周辺のホテルで集まるイベントがある。各支部が担当する山を歩く。奥峯山の山上ヶ岳と八経ヶ岳が東海支部の担当、歩いてイベントで報告する。

21. デジタルメディア委員会（井上）

- ・JAC-TOKAI GUIDE 2023 をPDFにHPに載せる。・希望者はコピーで渡す。

22. 東海支部報（星）

- ・支部報147号6/30. 発送。（参加者）高橋、今津、服田、前田、高松、西山、村瀬、岩月、井上、鯉江、石原、鈴木（絵）（ZOOM）和田、金谷、稲葉、荒木、星

【2023年7月常務委員会】

日時:7月26日(水)19時(ZOOMとの並行開催)

1. 支部長挨拶（高橋）

- ・懸案、支部の活性化と財政健全化の二本立て検討が必要である。
- ・常務委員会のあり方、今回からなるべく報告事項はできるだけ割愛し審議事項に時間を掛

ける。

- ・後半は、支部の活性化について議論をする場にしてほしい。

2. 総務委員会（今津）

- ・電子メール会員への移行は、現在30名申込み。
- ・匿名の寄付あり。
- ・次回の常務委員会は、懇親会のため30分程度。

3. 播隆上人地蔵祭り（高橋、前田）

- ・揖斐川町春日に東海支部が建立した播隆上人を記念する石碑がある。
- ・8/19(土)スタッフとして準備、近くの法幢寺で開催される夕涼音楽祭に参加、高橋支部長の挨拶。

【IBI bace もりなり】で宿泊。

- ・8/20(日)播隆上人地蔵祭り東海支部が協賛。
- ・8/20(日)祭りに参加、多くの方に参加していただきたい。
- ・参加申し込み方法は、メールマガジンにて掲載。

4. 愛知山岳連盟（鈴木絵美子）

- ・7/11 第2回登山勉強会沢登り講習会は、オンラインで実施し途中通信不良により中断。
- ・8/8 第3回登山勉強会にて、引き続き後編を開催する予定。
- ・今後も毎月、登山勉強会の開催予定ですが詳細は未決定のため、決定後に紹介。
- ・10/20-22 安全登山指導者研修会あり、メールマガジンにて配信。

5. 支部友委員会（金谷）

- ・山行は、特に報告事項無。
- ・8/8 支部友ミーティング「ヒマラヤ今昔」は、自由参加。
- ・夏山フェスタで70名が記名し、入会11名、オリエンテーション参加6/23 12名、6/26 18名。
- ・再度、入会勧誘を進める。

6. 山行委員会（稲葉）

- ・特に報告および審議事項無。

7. 亀の会（村瀬）

- ・欠席、資料無。

8. 猿投の森づくり（和田）

- ・9/16 わいがや講座「気候変動と自然環境・森づくり」の関係について開催される。
- ・9/16 なごや環境デー、久屋大通にて当会が出店。
- ・上記、いずれも自由参加、メールマガジンに

て配信。

9. トレッキングクラブ（服田）

・欠席（会議終了間に参加） 資料のみ。

10. 東海支部報（星）

・No. 174 東海支部報でユースコーナー掲載、事項も掲載する。

・No. 175 山岳古道調査活動、各委員会報告を記載依頼する。

11. アルパインクラブ（高橋）

・現在、会員 21 名（予備 5 名）

・審議事項は、ロープ購入済（50m×2 本、4 万円） 事後承認された。

・ロープ管理は、高橋支部長。

12. 青年部（荒木）

・欠席 資料のみ。

13. 東海学生山岳連盟（大槻）

・9/23～24 ゴザフェス 周知。

東海学生山岳連盟と東海支部で、事前打ち合わせ実施へ。

東海支部の祭典として、盛り上げたいので多くの方に参加してほしい。（高橋）

14. 登山学校（服田）

・欠席 資料のみ。

15. 自然保護委員会（石原）

・欠席 資料のみ。

16. 海外登山（山田）

・6 月末から 7 月初め、山田さん計画で日本山岳会ユースクラブがカナディアンロッキーのクライミング実施、予算 45 万から 50 万円程度。トラブルなし、ただし 6 月末に天候不順。

・今回の計画は、3 か年で 2024 年、2025 年も実施予定。

・今後は、草野さんまたは広島支部大田さんに計画を任せる。

・ネパールの未踏峰マウントフォレ登山は、実施未定。

17. ボランティア委員会（前田）

・特に報告事項無。

・東海支部障害者割引に関して、審議。

・東海支部障害者割引については、最終的には総会での決議事項。

・現在、東海支部の障害者 5 名。

・総会までに、自己申告で東海支部での障害者を把握する。ただし、障害者の範囲は継続検討。

・東海支部から日本山岳会本部へ障害者割引検討について数回検討依頼、無回答。

・継続的に日本山岳会本部へ検討依頼する。

・来年に向けて、争点整理していく。

・単純に東海支部として、障害者手帳保持者で自己申告された方は支部会費 1,000 円割引する案もある。

18. 遭難対策委員会（高松）

・8/20 装備講座について、メールマガジンおよび HP の News で広報。

19. 写真展実行委員会（岩月、井上）

・欠席

20. デジタルメディア委員会（井上）

・欠席

21. 技術向上委員会（清水）

・資料無

・11/19(日)15:00～16:00 無雪期【登山における疲労を考える（仮称）】三浦裕氏による講習会。

・冬季講座、2 月下旬または 3 月 雪崩講習会とイグルー講習会をセットで検討中。

22. 古道調査（西山）

・資料無

・11/18、11/19 アキバ街道を日本山岳会本部と実施予定。

* 審議事項 支部の活性化について意見交換

・広島支部は、スモールコンパクトにまとまっていて、各事業活動が速やかに支部を上げてできている。片や東海支部は、会員約 350 名でネットワークの良さがなく、どの委員会が顔を出すのか？ 誰が行くのか？

・大垣山岳会は、入会者が多い。HP でほぼ毎週山行情報を更新掲示、スキルアップ PR している。

・入会希望者のスキルアップニーズに、応える必要がある。

・各委員会の位置づけが分かりにくい。

・HP は、内部向けか外向けなのか分かりにくい。

・支部員が多数集まって、山行の計画および報告する場（交流場）を設けてはどうか？

・東海支部のコアがあり、大事にするのがいいのか？ 新しい形にするのか？

・各委員会ですることと、全体ですことは違う。

・時代にあった伝え方、SNS 発信および Zoom で委員会をオープンにしては。

・何をするのか？ ポリシーが必要ではないか？

・東海支部員になるメリットは、何か？

・山行の打ち合わせが、一般会員はルームに入れない。（利用できない）

- ・委員会に入っている人以外の会員は、落ちこぼれていく。
 - ・個人山行に対しても支部として、計画の作り方などフォローするなどしてはどうか？
 - ・総会で委員会紹介しても一部の方のみ参加、いろんな委員会の活動が知られていない。
 - ・トレッキングクラブは、年齢枠が広くなり山行計画は順番で作成。支部員へのPR不足。
 - ・会をやめていく方の理由を集めて、対応策を検討する必要がある。
 - ・カナダ山岳協会にガイドが入っているメリットは、装備など購入割引ある。
 - ・会に入っているメリットを明示する。
 - ・会には、専門的な登山者がいてこうゆう知識が得られるなど明示できると良い。
 - ・若い人には、夢を与える支部であることを前面に出してはどうか？
 - ・確実なキーワード「会のメリット」として、今後深堀。
 - ・12月ごろまでに素案を作り、来年1月から3月に固めて4月から新しい東海支部としたい。
 - ・本会の原点はサロンとして議論および情報交換する場があった、新しい東海支部を作っていきたい。
 - ・HPのアクセス、リンクが悪い。
 - ・意見が多かったのは、会員メリットは？
(参加者) 高橋、今津、前田、高松、西山、星、清水、鈴木(絵)、服田、山田(利)、大槻
(ZOOM) 和田、金谷、稲葉、千葉
- 【2023年8月常務委員会】**
議事録はなし

ル ー ム 日 誌

- ―― 5月 ―――
- 大会議室 / 小会議
- 2(火) 県岳連
- 5(金) / 古道塩の道
- 8(月) 登山学校運営委員会
- 9(火) 支部友委員会
- 10(水) 山行委員会
- 11(木) 自然保護委員会/アルパインクラブ
- 14(日) 東海支部総会
- 15(月) 図書委員会・読図会
- 16(火) ボランティア委員会
- 17(水) 東学連 / 技術向上委員会
- 18(木) 正副支部長会議/総務委員会
- 20(土) 猿投の森づくり自然観察会

- 22(月) / 支部友読図会
- 24(水) 常務委員会
- 26(金) 亀の会
- 30(火) 遭難対策委員会
- 31(水) 県岳連
- ―― 6月 ―――
- 1(木) 写真展実行委員会
- 5(月) 支部友委員会
- 6(火) 県岳連
- 7(水) 青年部 / TNCC
- 8(木) 自然保護委員会/アルパインクラブ
- 12(月) 登山学校運営委員会
- 13(火) 支部友ミーティング
- 14(水) 山行委員会
- 18(日) トレッキングクラブ
- 19(月) 図書委員会・読図会
- 20(火) ボランティア委員会
- / 技術向上委員会
- 21(水) 東学連
- 22(木) 正副支部長会議 / 総務委員会
- 26(月) / 支部友読図会
- 27(火) 遭難対策委員会
- 28(水) 常務委員会
- ―― 7月 ―――
- 3(月) 支部友委員会
- 4(火) 県岳連 / TNCC
- 5(水) / 青年部
- 8(土) 登山学校机上講習会
- 10(月) 登山学校運営委員会
- 12(水) 山行委員会
- 13(木) 自然保護委員会/アルパインクラブ
- 17(月) 図書委員会・読図会
- 18(火) ボランティア委員会
- 19(水) 東学連 / 技術向上委員会
- 20(木) 正副支部長会議 / 総務委員会
- 24(月) / 支部友読図会
- 25(火) 遭難対策委員会
- 26(水) 常務委員会
- 28(金) 亀の会
- ―― 8月 ―――
- 1(火) 県岳連 / TNCC
- 2(水) 青年部
- 3(木) 写真展実行委員会
- 7(月) 支部友委員会
- 8(火) 支部友ミーティング
- 9(水) 山行委員会
- 10(木) 自然保護委員会/アルパインクラブ
- 14(月) 図書委員会・読図会

15(火) ボランティア委員会
16(水) 正副支部長会議 / 総務委員会
20(日) 登山学校机上講習会
21(月) 支部友誼図会
23(水) 常務委員会
29(火) 遭難対策委員会

会員異動

入会：久郷一郎(17142) 岡村隆徳(17152)
退会：榎間清子(15255) 足達京子(16587)
田中 清(9699) 木村桂子(16149)
金田博秋(9906) 金田紀代子(14043)

INFORMATION

【総務委員会からのお知らせ】

△ゴザフェス 2023 の案内

恒例のゴザフェスが以下のように開催されます。東海支部で活躍中のクライマー 山田利行さん、谷 剛さん、草野駿季さんが参加します。

場所：鈴鹿 藤内小屋および御在所岳

日程：9月23日(土)、24日(日)

内容

15日体験クライミング、藤内小屋にて交流会

16日様々なルートに分かれて山頂を目指す

連絡先：申込み：総務委員長今津英一朗まで

imazu.eitirou@maroon.plala.or.jp

【ボランティア委員会からのお知らせ】

以下の行事を計画しています。一度、参加してみてください。

①タンポポ登山(試験観察中の少年たちとの登山)

日時：10月20日(金)・予備日11月2日(木)

場所：猿投山

②SON愛知「山岳会と一緒に登山」(知的障がい者との登山)

日時：10月29日(日)

場所：湖西アルプス・座談山

③親と子のふれあい登山(幼稚園児との登山)

日時：11月4日(土)・11日(土)

場所：鈴鹿・尾高山

④秋のブラインド登山

日時：11月5日(日)

場所：富幕山

①以外は、まだ余裕があります。参加してみようと思われる方は大歓迎です。前田までご連絡ください。詳細は、折り返しメールいたします。

maedaiq@gmail.com

ボランティア委員長 前田隆久

【アルパインクラブからのお知らせ】

下記の講演会を開催いたします。

11月3日～5日

全国ユース交流会が美濃加茂・高木山で行われます。東海支部でおもてなしをしたいので、皆さんお手伝いをお願いします。

内容：3日～4日は、高木山にてクライミング及び練習 宿泊は、犬山・桃太郎公園キャンプ場にて。5日は、伊木山か瑞浪・屏風岩
*クライミングの経験は問いません。お手伝い、おもてなしの出来る方は連絡ください。

連絡先：メールにて rejitaka176@ybb.ne.jp

アルパインクラブ 高橋玲司

【技術向上委員会からのお知らせ】

下記の講演会を開催いたします。

「安全登山の基本一体調管理法身につける」

日時：11月19日(日) 15時～16時30分

場所：OMCビル4F 講堂

講師：三浦 裕氏

内容：

①登山における体調管理の重要性

②体調管理のポイント

③脱水症、熱射病、熱中症、低体温症病態と予防法・応急処置

申込方法：

会員番号、性別、年齢、電話番号、講習内容に関する質問(あれば)を書いて下記までメールで連絡ください。

simizu@ogaki-tv.ne.jp

技術向上委員長 清水克宏

編集後記

国連事務総長が、「地球温暖化から沸騰化の時代が来た」と述べておられる。支部報の追い込みは、汗をかきながらの作業で、秋の気配が感じられない。

それでも、“秋の実り”はやって来たようだ。柿や栗、今はやりのシャインマスカット、桃などの便りが届く。農家の苦勞を忍びながらいただくとしよう。山歩きが一層楽しくなる。

星 一男

SINCE 1975
mont-bell
 FUNCTION IS BEAUTY

最新情報はこちらから
www.montbell.jp



☎ 0088-22-0031 📞 伊電話 06-6536-5740
 株式会社 **モンベル** 【お問い合わせ】モンベル・カスタマー・サービス

法務相談は行政書士にお任せください!

相続 会計 許認可

1時間無料相談

あなたの不安を解決に導きます
 遺言書、遺産分割協議書、
 法定相続情報一覧図作成、任意成年後見の相談など



西山行政書士事務所 ☎052-961-6506
 名古屋市中区丸の内3-21-21丸の内東桜ビル1004 **久屋大通駅 徒歩1分**
www.nygs-office.com

『東海支部報』では、
広告を募集しております

表4(裏表紙)掲載

※掲載のご希望・お問合せは
jactokai107@gmail.com まで

***** OMC *****

住いのコンサルタント

(有) 富士見企画

〒460-0014
 名古屋市中区富士見町8番8号

オフィスに関する悩み事、丸天産業が全て解決します。

ファシリティマネジメントによるオフィス構築や
 デザイン、インテリアやセキュリティなど
 オフィスのすべてが揃っています。

オフィスのお困りごとを丸がかえってお応えいたします。



郵送無料 **Honesty**

コンサルティング事例集

オフィスに関するお悩み事の解決事例が載っています。
 お申込みは下記までお電話ください。

株式会社 丸天産業

本社 〒460-0008 愛知県名古屋市中区栄5丁目10-34
 TEL: 052-241-3686 FAX: 052-241-0457



印刷全般

ご相談ください

(有)アジマプリント

〒462-0015名古屋市中区中味鏡二丁目438番地
 TEL(052) 901-1256
 FAX(052) 901-2278
 E-mail : ajimaprint@giga.ocn.ne.jp